

特67

914

簡易工業製造法

前編

技工研究會發行

267

284

緒言

凡そ國家の生存を維持するには如何にせば可ならん乎其の運用手段は種々ある。雖とも要は富強の二點に外ならず故に此の富強は恰も車の兩輪の如く常に併進し。涉せば其國家は安全に治國大平を謳歌するに至れり如此國民は實に幸福の民と云ふべし然れ共如何に強兵なるも富の度合に伴はざる不生産的事業のみにては到底國家維持の上より能くすべき事にあらず果して然りとせば如何にして富を増進し得らるや申迄もなく商工業より農事の改良拓殖山林の經營鑛山の採掘等より殖産の部面に向ひて奮闘努力せざるべからず然れども我が國の如き僅々五十年間に文明は長足の進歩をなし今や世界列強の伍件に入りたりと雖共其の實工業界の如きは未だ幼稚にして世界列強と比肩する能はず此の時に當り産業の發展を圖るは最大の急務にして一日も忽緒に附すべからざるものとす然れ共口にのみ漠然工業云々を稱ふるも實行なき皮想は其の發達上何等の效果あるを認めず故に個人家庭に於て各人業務の餘暇之れが實務練習上最も簡易なる方法に依り婦人少子と雖も之を應用實驗せば各



人の腦裏に工業心をして自然印象せしむるの效果あると同時に他面に於ては一家の財政上緯大なる經濟の一助ともなり併せて國家工業上發展の自然動機ともならむ乎編著茲に觀る所あり聊か簡易工業製造法を編輯し以て同志と共に益々之を研究し斯業の發達を圖らんと欲す希くは大方の諸賢幸に予が不才を咎むるなく餘暇本書の各項をして研究材料の用に供せられん事を切望の至りに堪ず聊か蕪言を呈して云爾

明治亥の歲

なが月の上

編者識

たる後揮發油にて脂肪と垢とを去り石鹼を以て能く洗ひ水壹升に燐酸アンモニヤ貳匁過酸化曹達貳匁強硫酸三匁の割合にて調合したる液に浸し六七度の沸湯中に五時間程放置し後清水にて洗ひスカーレツトエス貳匁硫酸少量と重硫酸曹達五匁との液中加入れ七八十度の熱にて一時間乃至二時間程放置し後取揚げて乾すなり

海老茶袴色揚法

ダイアミンボルドーB₁%炭酸曹達三%硫酸曹達一〇%ダイアミンブアイオットN₁%を調合し水に溶解なし約一時間程浸し

置くべし綺麗に染る事妙なり

茶色染劑法

フランアシードを使用すべし毛織物、絹木綿等能く染るべし

擬造もみの染色法

水壹升に左の藥品を調合して能く煎じ出し紅色染劑を造り置くべし使用の節は左の紅良劑五合に對し明礬拾匁水壹升八合を割り尚ほ其の中へすみ貳拾匁を混じ能く煎じ出し布を二時間程浸し置き後水にて充分洗ひ乾すべし紅色染劑の製法は左の如し

目次

- 一、簡易洗濯劑製法
- 一、衣服類しみぬき法
- 一、黒色染色法
- 一、鼠色染色法
- 一、緋縮緬色揚法
- 一、緋色染色法
- 一、海老茶袴色揚法
- 一、茶色染劑製法
- 一、擬造もみの染色法
- 一、紺色染色法
- 一、花色染色法
- 一、緑色染色法
- 一、びんろうじ染色劑製法

- 一、煙草脂汚去除法
- 一、茶染物色拔法
- 一、油蠟石炭油しみ拔法
- 一、藍染色取落法
- 一、簡易色布色拔法
- 一、酒のしみを抜取法
- 一、インキの斑點を拔法
- 一、簡便漆器油香を除法
- 一、蟻の驅除法
- 一、簡易玉子の檢査法
- 一、天麩羅油の秘法
- 一、安産の妙藥製法
- 一、筍の苦みを除く法
- 一、インキにて書しを白くする法
- 一、松茸貯藏法

きわだ七匁 すわう百匁松脂七匁

紺色染色法

上等石鹼貳匁五分加里五匁ペンツブラツク、ブリユ五シ―四匁を水に解かして染る布を漬け入れ一時間程煮出し後水にて能く洗ひ乾すべし

花色染色法

先づ薄き藍にて染める布を染め置き暫時乾して清水にて洗ひ染布百匁に付き明礬拾貳匁酒石酸三匁を熱湯にて適宜に溶解し前の布を一時間程浸して煎じ揚げ清水にて充分洗ひ乾すなり

緑色染色法

百三十度の水にウスシツクを溶し以上の中へ四十分程染布を放置し別に熱湯貳升位へ明礬六七拾匁を投入し半時程にて取り揚げ水に明礬少量を溶し能く洗ふべし
びんろうじ染色劑製法

煙草の脂汚を去る法

ふし四拾匁びんろうじ三匁さくろ皮三匁以上の三種を合劑し適宜に水を加へて煎じ出すべし
衣服にやにの付きたる時はやにを能く除き取り筆灰にて吸ひ取り後石鹼を以て洗

ふべし但し染地には烏梅汁を用ゆるべし

茶染物の色を抜く法

茶色に染りたる布を白くするにわ水に酒少量を加へて煮るべし白くなる事請合なり

油蠟石炭油の斑點ぬき法

早稻のスクモを白焼にして汚れたる物の裏表より布き白紙にて其の上を覆い鉛筆にて再三能く熨し弾きて拂ふべし

藍染色を落す法

藍色を白くするには石灰を灰汁に少量加へ布を入れて充分に煮るべし白くなる事

局部を能く拭ふべし綺麗になる事誠に妙なり

インキの斑汚を取る法

アルコールにアンモニヤ水を等分に調合し筆にて幾回も塗布するなり全たく抜けるべし

簡便漆器油香を除く法

新らしき漆器は毎日五時間程キラズを入れ置くべし但し日々新らしきものと取替へるべし其の上菜にて洗へば油氣も取れてよし

蟻の驅除法

妙なり

簡易色布の色抜法

亞鉛末拾匁生石灰貳匁の混合劑を作り徐々に水壺升を加へて上澄の水を別器に取り置き之れに適宜の水を混合し一夜放置し翌日更に明礬水八匁に酒石酸九分五厘を適當の水に溶解し其の中に四拾分程浸し後清水を以て充分に洗ひ乾すべし地質其他を損せず木綿絹毛織物等の色を抜くなり

酒のしみを抜取法

硼酸とアンモニヤを混合したる液を以て

砂糖壺に蟻の附きたる時は白墨にて太き線を壺のふちへ引き置くべし又樹木等には若布の煮出し汁を冷して根に撒布すべし直ちに除く事妙なり

簡易玉子の検査法

清水壹合に食鹽三拾三匁の割合を以て能く攪拌し溶けたる後玉子を除々に入れるべし日経る事多き程上部面へ浮き出るべし

天麩羅油の秘法

上等胡麻油六分樵の油四分を混合して用ゆべし

安産の妙薬製劑法

川芎、白芷、枳殼、當歸、大腹皮以上を等分に混合し服すべし

筍の苦みを除く法

筍を茹でる時に蕃椒壹本を入れるべし

インキにて書きしを白くす

る法

琥珀硝石明礬硫黄等を各々一分を混和し硝子瓶に入れ置き其の少量をインキの斑點に撒布し其の處を能くこするべし直ちに消ゆる事妙なり

松茸貯藏法

食鹽四合に清水壹升の割合を以て新らし

き松茸を茹で取り出して充分乾かし桶に生松葉を能く布き詰め其の上に乾かせし松茸を揃へ入れ又生松葉を布きて又松茸を入れ幾度も右の様に段々に重ねて漬り入れ終りに前の茹で湯の冷しを加へて蜜封し置くなり

硝子接ぎの製法

アルコール四分に適宜の魚膠を加へて後アンモニヤ護膜一分及びガルバム一分を調合して製するなり

鐵瓶に酒氣あるを除く法

火鉢に堅炭を入れて火をこし火の起き

し炭火を取りて灰を能く除き鐵瓶の中へ投入すべし

物を軟かに煮る法

魚類を軟らかに煮る時は山檀子を少量加へて煮るべし骨迄軟らかなるべし昆布若布の類は最初小豆を少量入れて煮るなり若布は少量の酢を用ゆべし

鮑は煎じ茶を入れて煮るべし

乾鮑は白糖を一匙加へて煮るべし豆類は炭酸曹達少量を加ふべし小豆は甘蔗の葉を少し入れて煮るべし

饅頭蕎麥のつなぎ法

摺り鉢にて南天の葉を充分に能く摺り之

れに水を加へて尙ほ能く摺り食鹽を適宜に混じて布袋に入れて漉し此の水を以て粉を捏ねるなり

菌の有害無害を見分る法

銀貨と共に菌を入れて煮るべし銀貨の黒色に變ずるものは有害なり

漆ぬきの法

衣類等に漆の附着せし時は直ちに種油を浸し能くもみて絞り漆氣を脱し後筆灰を以て吸ひ取るべし

下駄の齒に雪の付ぬ法

下駄の齒を能く油に浸し置くべし雪の附

着せぬ事妙なり尙ほ其上丈夫になるべし

簡易牛乳検査法

先づ買入れたる牛乳を瓶に入れ静かに能く磨きたる毛糸針又は之れと同じ様な針を真直に入れ直ちに元へ引き揚ぐるに混合物なき牛乳は必らず針に零が附着すべし若し此の時混合物あるものは決して零の附着する事なし

象牙の黄色を元通に成す法

水に明礬を加へて濃溶液を作り一時間程液中に浸し毛布類を以て能く磨くべし

硝子磨の製造法

二十日間程許り蜜閉し置くべし

馬鈴薯落雁の製法

馬鈴薯の濃分壹升を煎り太白砂糖八十匁を混じり布巾に包み湯煎にのせ僅に濕氣を含ませ再び能く混和して型に入れて打ち堅め陰乾にするなり

青梅の砂糖漬の法

青梅壹升を白砂糖二百匁にて瓶又は壺に漬け固く自張りして一ヶ月後に取り出し中の汁を瓶に入れて貯はへ置くべし腹痛の時等には盃に一杯程を飲めば治る又下痢にも効あり濃き時は水にて割り用

バラフィン油を猪口に一杯を水貳升に混じり布片にて能く浸し拭くべし早く美しく成りて長く保つべし

雨障子の糊製法

糊に明礬少量を加へて貼るべし風雨に觸るゝも離れず又貼り替の時に際いし紙片が綺麗に放れ骨を洗ふ手数なし

風薬の製法

醋酸アンモニヤ液五分單舍利別四匁以上を混じて一日分三回に腹用すべし

簡便白酒釀造法

糯蒸米壹斗白麴四升清酒壹斗を桶に入れ

ゆべし

茄子の好肥料法

田螺を能く潰して茄子の根株の傍らを掘りて肥料にすべし

人糞代用肥料製法

風呂水拾荷に大豆壹斗を熟煮し能く搗きて冬なれば一日二回夏は三四回攪拌して適宜に溶解し腐熟して使用すべし

簡易味噌の製法

能く煮たる大豆六升を臼にて搗き薯の濃分製造の搾り粕を壹斗を蒸し加へ更に鹽五升麴三升を混合して臼にて搗き交ぜ大

豆の煮汁を注ぎて柔らかかにし密封して貯
はへ置くべし凡そ六七週間にて出来あが
るべし

食酢の腐敗せぬ法

酢の中へ鹽少量を炒りて加へ容器を充分
に密封し置くべし

絹漉代用豆腐の法

普通の豆腐を以て豆腐汁を能く煮立たせ
其の中へ少量の炭酸曹達一つかみをふり
掛け直ちに蓋をなし再たよび煮るべし味
ひ美しくして二重漉の如し其の他味噌汁
湯豆腐にもよし

椀皮の煎じ汁四分炭末十八分硫酸三
分を攪拌して加へて製す光澤最もよし

香水の製造法

ラベンダ油ベルガモット油檸檬油各々三
分桂皮油一分以上を調合したるものにア
ルコールを加へて凡そ千分に稀くすべし
蠶よりテグスを造る法

蠶が上族の前になるに其の體が透き通を
る様になる其時之れを瓶の中に入れ四十
倍の醋酸水に三四十時間浸し後取り出し
て其の頭を切り尾より逆に頭部へ搾り斯
くして取出したる二本の糸を兩手の指で

黒檀擬造製法

蘇木の温溶液中に樺若しくは梨の木材を
浸し置き之れを乾かし醋酸銅の冷溶液を
塗り再たび乾かせば一見黒檀と少しも變
る事なし

ひの秘藥法

酒壹合の中へ白胡麻を摺りて布袋に入れ
能く口をして前の酒の中へ漬け置き局部
に塗るべし

靴墨の製造法

炭末六分糖蜜廿八分砂糖四分魚臘三
分硫酸一分を能く調合し八時間程放置し

引き延ばし板の上に置き充分引張りて乾
かし二時間程の後マルセーニ石鹼の三百
倍の水に入れ五分間煮て取り出し乾かし
て光澤を付るべし

木材防腐豫防法

切り立てなる木材を二十四時間内に丹礬
を能く注入すれば拾七年間は保存せるべ
し

醬油の製造法

澱分製造の搾り粕一斗を能く蒸煮し白大
豆七升を混じて臼にて搗き麴七升大豆汁
一斗二升鹽六升を加へて桶に入れ毎日二

回攪拌し凡そ三週間を経て取り出し能く
搾りて粕は更に前の各種を同量に加へて
二週間程で搾り前きの一番と和し三週間
後に使用せらるべし

石鹼製造法

苛性曹達を清水に溶解し其の半分を鐵鍋
に移し牛脂を加へて尙ほ沸騰し後残りの
溶液を加へて攪拌し尙ほ煮る時は曹達で
もなく脂肪でもなき液體を得べし更に熱
湯を加へて薄くしたる後鹽を加へて沸騰
し冷やせば石鹼のみ液面に浮ぶべし之れ
を掬ひ取りて少量の苛性曹達と水とを混

じ更に沸騰せしめて型に入れ固めたるも
の之れに香料を加味せしものは即ち普通
石鹼なり

聲の美しく成る法

大根卸の中へ黒大豆を入れて充分に浸し
置き豆の軟らかになりし時之れを袋にて
漉し液のみを服用すべし



明治四拾四年九月廿七日印刷
明治四拾四年十月一日發行

定價金八錢

不許
複製

編輯者 東京府住原郡下大崎二百九拾壹番地
中村武

印刷者 東京市芝區三田四國町二番地
門岡甲次郎

印刷所 東京市芝區三田四國町二番地
合資會社 三田印刷所

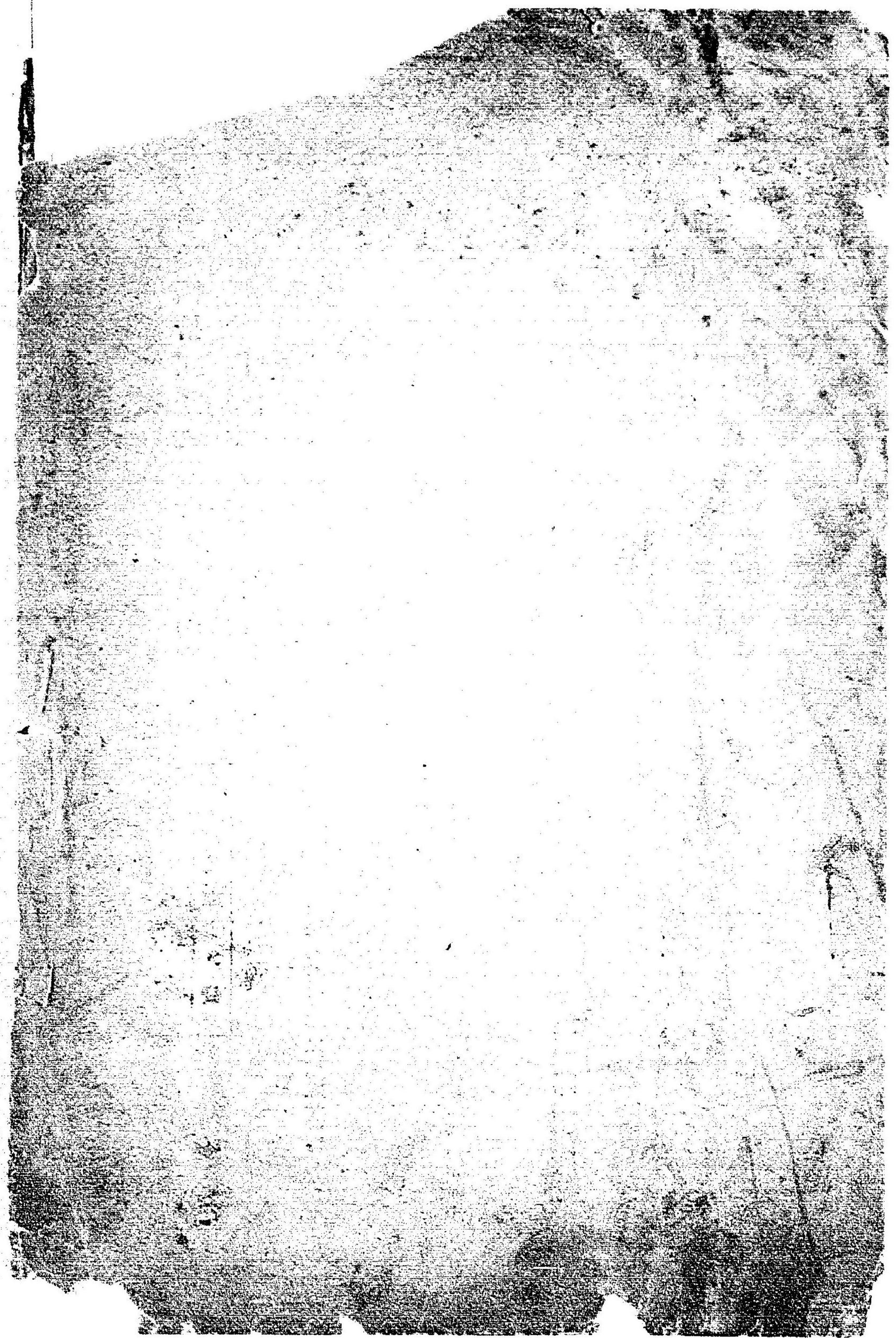
東京府住原郡大崎町下大崎二百九十一番地

技 工 研 究 會

發行所

267

284



特67
914

065779001-0
特67-914

簡易工業製造法

技工研究会

M44
CDA- 446

